

平成28年3月31日

アルプスだより

同窓会アルプス会会報

信州大学医学部保健学科看護学専攻
信州大学医療技術短期大学部看護学科

第21号



～病院外来棟からの常念岳～

会長あいさつ	2
第21回アルプス会総会報告	3
講演会の報告	4
会計報告	6
新任教員のご挨拶	8
退任教員のご挨拶	9
活躍する同窓生	10
同級会報告	12
同窓会会則	13
同窓会事務局よりお知らせ	15
思い出の写真★中校舎の今・昔	16
編集後記	16



信州大学
SHINSHU UNIVERSITY

会長あいさつ

11回生（医短） 中西 美佐穂
（信州大学医学部附属病院看護師長）



寒い日々が続いておりますが、会員の皆様はいかががお過ごしでしょうか。松本では1月に入り30cm程の積雪があり、急に雪景色となりました。

私は今年度から会長となりました11回生の中西です。役員の立場となる前は、恥ずかしながら同窓会活動にほとんど関わることがなかったため、前年度までの副会長の期間はアルプス会の活動を確認しながら、過ごしてきたように思います。毎年開催される総会及び講演会においては、各学年の理事の皆様のお力添えが非常に重要であると感じてきました。理事の皆様を通じて会員一人おひとりのご理解とご協力をいただきながら、微力ではございますが会長の務めを果たしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、国は2025年の超高齢化社会に向けて地域包括ケアシステムの構築を政策のひとつに取り上げています。信大ではGP（good Practice）の中で、平成26年度から、信州大学保健学科看護学専攻と信大病院看護部との連携で、「実践力ある在宅療養支援

リーダー育成事業」が始まっています。昨年のアルプス総会では、事業推進プロジェクトリーダーである小児・母性看護学講座 坂口けさみ教授から、事業内容についてご説明がありました。医療現場では在宅療養支援が非常に重要で、看護師は患者さんが安心して地域で生活できるように、疾病や障害による生活の変化を予測し、患者さんやご家族の意向を確認しながら、地域との連携を密にすることが必要です。病院からの情報もそのひとつの手段です。信大病院では入院患者さんだけでなく、外来通院中の患者さんの情報も地域の方と共有できるように、今年1月、システムが再構築されました。今後、地域包括ケアシステムの中で、アルプス会の同窓生が様々な場所と分野で、お互いに連携しながら患者さんやご家族の生活を支えるために、これからも活躍されることを願っています。

役員・理事の改選について

平成27年度から28年度新役員・新理事については下記の通りに承認されました。

カッコ内は卒業回生を示す。(○)は医短、(保○)は保健学科、(在○)は在校生、(修○)は大学院保健学専攻修士課程および博士前期課程看護学領域、(博)は大学院博士後期課程母子保健学領域

会 長	中西美佐穂 (11)		副 会 長	赤羽 公子 (13)	
幹 事	保健学科教員 (柳澤節子・鈴木泰子)				
会 計	茅野 郁子 (13)	書 記	下里 誠二 (11)	会計監査	小林美恵子 (11)
理 事	藤澤 芳子・曾根 亮子 (1) 青柳 裕子・小山 佐伊 (4) 伊藤喜世子・丸山みや子 (7) 太田三七子・小池 聖子 (10) 戸谷 陽子・堀内 和枝 (13) 中村美貴子・山田 裕子 (16) 奥原 香織・角田 道代 (19) 嶋田 愛・降旗 由縁 (22) 青木 裕子・藍葉真由美 (25) 数家裕香子・堀 美佳 (28) 井上 彩・尾崎麻衣子 (保1) 道永さゆり・宮下 裕子 (保4) 戸田結梨香・丸山 輝 (保7) 浅沼 千晶・佐藤 貴衣 (在1) 原 大地・鳥居 靖晃 (在4) 芳賀亜紀子 (修3) 近藤 里栄 (在-博)	手塚 珠・三井 貞代 (2) 斉藤 弘子・小山喜代美 (5) 大澤 薫・橋本 京子 (8) 武 可奈子・太田香代子 (11) 福迫 由美・高見 典子 (14) 瀬戸 恵美・尾上 りえ (17) 菊川 朝子・伊東明日香 (20) 野竹 真理・村松洋次郎 (23) 小林 由美・重村 恵美 (26) 松尾 美希・滝沢 仁美 (29) 伊藤那都子・青木 悠有 (保2) 曾根 隆暁・前田 暖生 (保5) 村田 諒・佐野 紫織 (保8) 高瀬 里穂・三浦 理沙 (在2) 芹澤 春香 (修1) 中島 節子 (修4) 吉澤 秀美・山口 大輔 (在-院)	藤本 益代・百瀬 悦子 (3) 堀内 香子・宮武千奈美 (6) 高橋奈津子・松田 弥生 (9) 加藤 琢江・加藤 文穂 (12) 西村 則子・今井三枝子 (15) 笠原百合子・伊藤 恵子 (18) 小林みちよ・竹花理恵子 (21) 青木 幸恵・稲葉 康子 (24) 中島 久美・小林 由香 (27) 加藤 聡美・小沼 博子 (30) 千葉 夏希・南山 孝幸 (保3) 長谷川和弥・宇都宮里佳 (保6) 徳永 彩乃・蓮尾 若葉 (在3) 八町 絢菜 (修2)		

第21回 アルプス会総会報告

以下の事項が審議され、承認されました。

平成26年度事業報告

- 1) 総 会：第20回総会 平成26年7月12日（土）13:30～16:00
場 所／保健学科地域保健推進センター 多目的講義室
平成25年度事業報告、平成25年度会計報告、平成26年度事業計画案、平成26年度予算案
講演会／『がんとのお付き合い、自分らしくふたたび生きる』
講 師／原 千晶（女優）
出席者／92名（理事・役員44名、同窓生（在学生含む）37名、一般（信大病院関係者、教員含む）11名）
- 2) 会報の編集・発行：平成27年3月「アルプスだより」第20号発行
印刷部数：2,700部 配布部数：2,517部（郵送2,176通、在学生310部、特別会員31部）
- 3) 在校生への貢献
・平成26年度卒業生（82名）に対して学習支援グッズ（名入ナースはさみ）の寄贈
・平成27年度入学生（80名）に対して学習支援グッズ（名入シャープペンシル）の寄贈
・オープンキャンパス活動支援（学生協力謝礼図書カード）
- 4) 同窓会員への貢献：同窓会当日に開催される同級会支援費…4件
- 5) 社会貢献：なし
- 6) 役 員 会：第1回…平成26年11月19日、第2回…平成27年4月30日、第3回…5月22日
- 7) 理 事 会：第1回…平成27年1月24日、第2回…5月31日
- 8) 編集会議：第1回…平成26年11月19日
- 9) そ の 他

平成26年度会計報告について（6～7ページをご参照ください）

- 8) 会計報告
- 9) 会計監査報告

平成27年度事業計画（案）について

- 1) 総 会：第21回総会 平成27年7月11日（土）13:30～16:30
受 付／13:00
13:30～14:30（総会）
14:40～15:40（講演会）
場 所／信州大学部医学部保健学科311番講義室
講演会／『ふぼみしょういぜんのほんらいのめんもくいかん父母未生以前本来面目如何？』（副題）一意味を問うということー
講 師／飯島恵道（短9回生 東昌寺住職）
- 2) 会報の編集・発行：平成28年2月頃「アルプスだより」第21号発行
- 3) 在校生への貢献
・平成27年度卒業生に対して学習支援グッズ（名入りはさみ）の寄贈
・平成28年度入学生に対して学習支援グッズ（名入りシャープペンシル）の寄贈
・オープンキャンパス活動支援
- 4) 同窓会員への貢献：同窓会当日に開催される同級会支援費
- 5) 理 事 会：第1回…平成28年1月、第2回…5月
- 6) 役 員 会：第1回…平成27年9月、第2回…12月、第3回…平成28年1月、第4回…4月
- 7) 編集会議：第1回…平成27年11月、第2回…平成28年1月
- 8) 各回生の名簿管理について
- 9) 社会貢献

平成27年度予算（案）について（7ページをご参照ください）

役員・理事改選（2ページをご参照ください）

その他

- 1) 地域保健推進センター寄付についての銘板掲示
- 2) 各回生の名簿管理について

同窓会総会 講演会の報告

『父母未生以前本来面目如何？』
～意味を問うということ～

講師：東昌寺住職 飯島 恵道 先生
(医短9回生)



卒業生でもあります。飯島先生は、住職として仏道を歩まれる傍ら、看護師としての職務経験もあり、自らを尼とナースをもじって、「あまらず (amans)」と称し、現在ご活躍されています。ご自身の経緯をもとに、一見難しいと感じるテーマを、わかりやすくひもといでお話ししてくださった内容をご紹介します。

■ 父母未生以(己)前本来面目

- ・父も母もいまだ生まれていない以前、あなたはどこにいたの？ 何者だったの？
- ・本来の面目：本来そなえている真実の姿
- ・己事究明：自分のことを突きつめていく、解き明かしていく、こと

私は、この言葉を育ての親である庵主さんから、小学生の時初めて聞きました。仏教とは、人格の完成を目指すための勉強で、難しい言葉が多いのですが、自分なりにその意味を考えました。本当の私とは？ 自己とは？ 自分探しの始まりでした。高2で病気を患い、入退院を繰り返す中、将来のこと(結婚は？ 部活はどうなっちゃうの?)など、悩みを初めて抱くとともに、一人の看護実習生さんとの出会いで、仏道以外にも人を救える道があるということに気づき、看護の道へ進みました。

■ 信大医短入学 ～ 愛知専門尼僧堂 ～ 駒沢大学
仏教学部入学 ～ 諏訪中央病院 ～ 東昌寺

信大医短を進学先に選んだ訳は、近いこと、それから、いずれ寺を継ぐことになるのだから、その前にやりたいことをやろうと思ったから。音楽が好きで、信州大学交響楽団に入部しました。入学後は、勉強が大変なのに、好きなことはやりたいから、部室での練習(トロンボーン)は欠かさず、夜も練習するようになって昼夜逆転の生活に。3年生の実習では、不登校・実習欠席にまで追い込まれ、衝動的に、剃髪してしまいました。医短を辞めて修行に出たいと思い、尼僧堂に出向いたけれど、「あなたには無理だ。修行道場に来てても成就できるとは思えない」と、門前払いを受け、結局、医短を留年し、一年やり直しました。

1986年4月、一度門前払いを受けた愛知専門尼僧堂

に掛塔(2年間修行)。尼僧堂に入ってから、仏教用語も解らない。勉強し直したい思いで、駒沢大学の入試にチャレンジ。1988年、仏教学部に入学し、勉強もサークルも熱心に励みました。院生時代には、友人の言葉に押され、国試に挑戦し、見事合格！ 看護師資格取得。やっと、ダメな自分から解放されたんです。

大学3年生時、チェルノブイリ連帯基金(JCF)でのアルバイトを通じて、鎌田實先生との出会いがあり、その縁で、卒業後、諏訪中央病院に看護師として勤務しました。

訪問看護は、私にとって適材適所の現場でした。ある患者さんに、自分の経緯を話したら、『あなたの役割は、仏教と看護の両方に、風穴を開けることよ!』と言われ、その一言で、今までのことは無駄じゃなかったんだ、私の役割はここにあったんだ、と認識することができました。

病院に就職したその年から、院内の「生と死を考える会」の事務局をつとめ、緩和ケア病棟が開設された時には、開設当初よりスタッフとして働き、ホスピスケアの中で自分がどう動くか、をテーマに関わっていきました。(1999年に退職。2000年、自分の寺である東昌寺へ戻る。)

■ 善光寺如来縁起からの読み取り

寺でのお勤めをしている中、東昌寺関係者の方のお宅から、一つの絵巻物が出てきて、これが実は由緒ある善光寺縁起を描いた貴重なものだということが判明しました。善光寺縁起とは、善光寺御本尊の故事来歴をつづった霊験譚です¹⁾。この善光寺如来縁起から、三国伝来一光三尊仏が、善光寺にまします理由を見ていきましょう。

1) 善光寺縁起に関する詳細は、下記のホームページでご覧になれます。
<http://www.zenkoji.jp/about/engi/>



【飯島先生と同窓生】島崎さん、高橋さん、青柳さん、中島さん、小池さん、矢部さん、井澤さん(順不同)

月蓋長者の生まれ変わりである本田善光の肩に、時を経て、阿弥陀如来が飛び乗り、「お前を待っていた。信州信濃へ連れて行ってくれ。汝と一緒に行って衆生を済度しよう」と、告げました。

つまり、『あなたを選んでここに來たのよ。』これを、病棟に置き換えたら…

- ・患者さんがあなたを選んで、ここに入院した。担当になった。
- ・あなたは、患者さんにとって、とても大切な存在
- ・患者さんも、あなたにとって、とても大切な存在
- ・お互いに選ばれて、願われて、ここで出会った
- ・お互い、明日が来るかどうかは、誰にもわからない(先代との別れがまさにそうであった。)
- ・だから、一期一会の今日を、精一杯、共に生きさせていただく。その具体的な共生(ともいき)の方法が『ケア』
- ・患者さんにケアを提供しているのみならず、患者さんからも何らかのケアを受けているはず。
- ・阿弥陀様をご供養し、阿弥陀様は救ってくださるという関係性
- ・それに気づくと、ケアは一方通行ではなく、双方向であることがわかるはず。自利利他のケア

患者さん・ご家族を「ほとけさま」と位置付けてみると…

- ・ケアを提供する→供養させていただく
- ・日々のご供養により、自分が守られる・救われる・安寧な日々がもたらされる
- ・フィジカルケアの中では、位置づけの変換は困難だが、スピリチュアルケア・宗教的ケアにおいては、

位置づけの変換をすることにより、患者さん・ご家族のニーズが見えやすくなるのではないかと……

- ・殊に終末期ケアにおいては、このような変換が必要になる場面も多いかと……

患者さんの「死」を境として、家族は、看取りの現場→供養の現場に移行。死亡時刻だけの問題ではなく、そこまでのプロセスが、その後に影響を与える。この部分をもっと気にかけてケアをしていると、後が変わっていくのかな。つまり、ケアと供養のグラデーションのようなケアが実現することにより、死別の悲嘆へのケアが実現しやすくなるのでは？

死の前と死の後が寸断されすぎていると、家族の心身の疲労に追い打ちをかけるようなもの。

- ・このようなケアにおいての傾聴は、「声なき声の傾聴」。いかに、御心を読み取るかが重要になる。読み取れたことを、家族にフィードバックすれば、のちの供養に生かされていく

そこで立ち上げたのが、『ケア集団ハートビート』²⁾。両方(尼とナース)やればいいんだ。そう思ったら楽になった。ようやく、自分が自分らしくなれた。今の私、amansの現場真ただ中です。

ケア集団ハートビートを立ち上げ、「生老病死のトータルケア」の提供に日々活躍されている飯島先生の背景ともいうべき、看護職と仏道の出会い(融合)が、良く分かるお話でした。生老病死……誰もが触れる・経験することでありながら、直面するまで意識することのない事象だけに、看護者としてサポートする手段を、家族・遺族としては、サポートしてくれる場所を知ることは、ひとつの心の強みにもなると思います。

尼僧姿で講壇に立つ飯島先生からは、想像できない学生時代の話には驚きましたが、お話の展開に、終始引き込まれ、校舎に居ながら、徳を得た気分になった講演でした。



2) 飯島恵道先生が代表を務める、地域社会に根ざした「生老病死のトータルケア」の提供を目指す市民団体。
メールアドレス：hbshinshu@gmail.com

平成26年度会計報告

自:H26.4.1 至:H27.3.31

<運営資金収支>

(単位:円)

科目	金額	備考
歳入額	2,592,018	
歳出額	1,653,537	
差引残高(A)	938,481	普通預金:899,138円、手持ち金:39,343円

<運営資金収入の部>

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
前年度繰越金	1,171,787	1,171,787	0	普通預金:1,170,763円+手持ち金:1,024円
新規会員入会費	1,400,000	1,420,000	20,000	新規会員71名分
預金利子	300	231	-69	
その他	0	0	0	
計	2,572,087	2,592,018	19,931	

<運営資金支出の部>

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
第20回総会開催費	518,000	490,587	-27,413	
講師謝礼	500,000	468,320	-31,680	講演費、交通費
花代	3,000	5,000	0	
茶菓子代	5,000	11,667	6,667	茶菓子代(講師・参加者)
雑費	10,000	5,600	-4,400	託児アルバイト代、印紙代
会報費	560,000	545,452	-14,548	
会報製作費	550,000	545,452	-4,548	会報印刷:2,700部、発送部数:2,176通
雑費	10,000	0	-10,000	
第20回総会準備費	150,000	159,556	9,556	
案内印刷・郵送代	150,000	156,852	6,852	印刷数:2,200枚、発送数:2,029通
雑費	0	2,704	2,704	短大6回生分はがき送料
会議費	167,000	112,662	-54,338	
役員会	24,000	17,000	-7,000	4/30、5/22、11/19開催分日当
理事会	80,000	58,000	-22,000	5/31、1/24開催分日当
編集会議	8,000	2,000	-6,000	11/19開催分日当
通信費	25,000	11,840	-13,160	理事会案内・各回生名簿の郵送
雑費	30,000	23,822	-6,178	理事会お茶代、役員会弁当代
在学生支援費	20,000	20,000	0	
入学・卒業記念品	0	0	0	
オープンキャンパス活動支援	20,000	20,000	0	図書カード20名分(図書カード1枚は残)
桐の木同窓会への同窓会費支払	200,000	200,000	0	1万円×助産選択学生20人
事務局運営費	30,000	30,000	0	
同級会支援費	120,000	80,000	-40,000	短大5・9・11・25回生へ
地域保健推進センター設置寄付金	0	0	0	
その他	60,000	15,280	-44,720	PCソフト代等、振込手数料
予備費	747,087	0		
計	2,572,087	1,653,537	-173,463	

<特別会計>

(単位:円)

科目	金額	備考
定期預金歳入額	7,544,739	
定期預金歳出額	500,000	150万円1口を解約
定期預金差引残高(B)	7,044,739	100万円×7口+利息

<収入の部>

(単位:円)

科目	平成25年度決算	平成26年度予算	増減	備考
定期預金(元本金額)	7,543,192	7,543,192	0	100万円×6口+150万円×1口
預金利子	2,000	1,547	-453	
計	7,545,192	7,544,739	-453	

<支出の部>

(単位:円)

科目	平成25年度決算	平成26年度予算	増減	備考
地域保健推進センター設置寄付金	1,000,000	500,000	-500,000	
計	1,000,000	500,000	-500,000	

【平成27年3月31日現在の総資金】

(単位:円)

(A) + (B)	7,983,220
-----------	-----------

会計監査報告書

会計全般について監査した結果、証拠書類および帳簿が適正に管理され、
収支にあやまりのないことを確認いたしました。

平成27年5月12日 会計監査 早川 雅子 印略

平成27年度予算

自: H27. 4. 1 至: H28. 3. 31

<収入の部>

(単位:円)

科 目	平成26年度決算	平成27年度予算	増 減	備 考
前年度繰越金	1,171,787	938,481	- 233,306	普通預金: 899,138円、手持ち金: 39,343円
新規会員入会費	1,420,000	1,400,000	- 20,000	新規会員70名見込 (実際の学生数: 新入生70名、編入生10名、大学院生1名)
預金利子	231	200	- 31	
その他	0	0	0	
計	2,592,018	2,338,681	- 253,337	

<支出の部>

(単位:円)

科 目	平成26年度決算	平成27年度予算	増 減	備 考
第21回総会開催費	490,587	63,000	- 427,587	
講師謝礼	468,320	50,000	- 418,320	
花代	5,000	3,000	- 2,000	
茶菓子代(講師・参加者)	11,667	5,000	- 6,667	
雑費	5,600	5,000	- 600	講演依頼状送付代、託児ボランティアアルバイト代・保険等
会報費	545,452	580,000	34,548	
会報製作費・送料	545,452	570,000	24,548	16ページ、2,800部見込み、封筒・宛名印刷・封入作業・送料含む
雑費	0	10,000	10,000	前年度会報発送代(再発送、退職教員分)
第21回総会準備費	159,556	173,000	13,444	
案内印刷・郵送代	156,852	170,000	13,148	
雑費	2,704	3,000	296	
会議費	112,662	167,000	54,338	
役員会	17,000	24,000	7,000	6人×4回×1,000円
理事会	58,000	80,000	22,000	40人×2回×1,000円
編集会議	2,000	8,000	6,000	4人×2回×1,000円
通信費	11,840	25,000	13,160	理事会案内郵送、欠席理事に名簿郵送
雑費	23,822	30,000	6,178	理事会お茶代、会議時弁当代等
在学生支援費	20,000	270,000	250,000	
入学・卒業記念品	0	250,000	250,000	入学記念: 名入りシャープペンシル100本 卒業記念: 名入りはさみ100本
オープンキャンパス活動支援	20,000	20,000	0	図書カード: 1,000円×20名
桐の木同窓会へ同窓会費支払	200,000	200,000	0	1万円×助産師コース選択学生20人
事務局運営費	30,000	30,000	0	
同級会支援費	80,000	100,000	20,000	
その他	15,280	0	- 15,280	
予備費	0	755,681	755,681	
計	1,653,537	2,338,681	685,144	

<特別会計>

<収入の部>

(単位:円)

科 目	平成26年度決算	平成27年度予算	増 減	備 考
定期預金(元本金額)	7,543,192	7,044,739	- 498,453	100万円×7口
預金利子	1,547	1,300	- 247	
計	7,544,739	7,046,039	- 498,700	

<支出の部>

(単位:円)

科 目	平成26年度決算	平成27年度予算	増 減	備 考
地域保健推進センター設置寄付金	500,000	0	- 500,000	
計	500,000	0	- 500,000	

新任教員のご挨拶

新任のご挨拶

基礎看護学 助教 上原 文恵



本年度より信州大学保健学科看護学専攻基礎看護学領域に助教として着任いたしました、上原文恵です。就職前から研究職希望だったのですが、妊娠・出産を繰り返し、常勤として就職するタイミングを逃していた私にとって、念願の就職でした。2歳と4歳の子どもを育てながら、仕事と家庭を両立させて

いくことは思った以上に大変ではありますが、温かく声をかけてくださる信州大学の先生・事務の方々、家族に支えられ、10か月間、働き続けることが出来ました。

信州大学での日々は、授業や実習で困ることがあると親切に相談にのってくださる先生方と臨床スタッフの方から教育者としての姿勢を学び、一生懸命学習しようとする学生からは謙虚に学び続ける大切さを学び、自分の未熟さを感じながらも、このような環境で教育・研究に携われることを嬉しく感じております。

これからも、同窓会の一員として、同窓会発展のためのお役に立てるよう、努めていきたいと思っております。

中々学ぶことが出来ていたのだと実感していたところでしたので、母校に戻り、教育に携われることにとっても感謝しています。

自己紹介

小児・母性看護学 助教 鈴木 敦子



今年度4月より、小児・母性看護学領域の助手として着任致しました鈴木敦子と申します。

出身は群馬県ですが、本学を卒業後、神奈川県のある大学病院に助産師として勤務し、4月よりこちらに勤務させていただいています。社会人になってからも、いつかまた松本に戻ってきたいなと思っておりました。また、自分自身が学生時代に大変恵まれた環境の

中で学ぶことが出来ていたのだと実感していたところでしたので、母校に戻り、教育に携われることにとっても感謝しています。

着任してからあっという間の1年でした。臨床でも学生と関わることはありましたが、教員になってからより深く長い時間を学生と共にすることで、私自身がたくさんエネルギーをもらっています。今はまだ至らない点も多く、諸先生方にご指導いただいているところですが、少しずつ慣れていき、臨床で学んだことを活かし、本学らしい看護教育に携わることが出来るよう努力を重ねていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

自己紹介

成人・老年看護学 教授 會田 信子



本年度4月に老年看護学の教授として着任致しました會田と申します。

趣味はお城巡りで、特に天守閣から眺める風景が大好きです。お城から出たら城下町のブラ歩きも恒例で（古地図があると更に燃えます…）、古くからのお店に立ち寄っては、郷土料理やお祭りのことなどを教えて頂きます。本学は国宝松本城の東、元はお城の

外堀だった美しい女鳥羽川に挟まれた地にあり、信大で働けることをとても嬉しく思います。

信大で働いて感じることは、保健学科と附属病院との連携の強さです。特に看護部の皆さんお一人お一人の人材育成への姿勢は誠実かつ真剣で、着任後、色々な方から温かいご指導・ご協力を沢山いただきました。また貴アルプス会からは、看護学専攻の教育のために、寄付などをいただき本当にありがとうございます。皆さまのご厚意に恥じないよう、襟を正して教育・研究・地域活動に邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

よろしくお願ひ致します

成人・老年看護学 教授 池上 俊彦



昨年4月から前寺田克教授の後任として保健学科看護学専攻でお世話になっております。10ヶ月が過ぎ、皆様方の御陰でようやく業務にも慣れて参りました。大学を卒業後盛岡の病院で3年間外科の研修を行った後、信大第一外科に入局し、専ら肝移植に携わって参りました。肝移植は手術ならびに

周術期管理に大変手がかかり、多くの専門職の知識、技術・技能を結集して行わないと良好な結果が出ない分野ですが、アルプス会の方々をはじめ、多数の皆様方のご協力により良好な成績を残してきました。平成16年から医療福祉支援センターの運営に関わり大学病院の連携・相談業務などで、大学病院内はもちろん、県内の多くの医療機関、社会福祉施設等のアルプス会の方々を含む多くの皆様にお世話になって参りました。

こうしてみると、随分とアルプス会の皆様にお世話になって参りました。今後とも、教育や研究面などでお世話になることと思いますが、宜しくお願ひ致します。

退任教員のご挨拶

退任教員のご挨拶

広域看護学 助教 高橋 理沙



この3月末をもって、5年間お世話になった信州大学を退職することになりました。思えば、教員という仕事が人生で初めての経験でしたので、諸先輩方には大変なご迷惑、ご心配をおかけしたかと思っております。この場を借りて深くお詫び申し上げます。

自分が学生だった頃は、学校の先生という先生に大体反発して過ごしていたので(塾の先生は別)、教員という立場になって初めてその大変さを感じることができました。特に実習施設の確保がこれほどまで大変なのか

と、学生時代当たり前に実習出来ていたことをありがたく思いました。臨床年数よりも教員年数の方が長くなるのは、人生何が起こるか分からないなど改めて実感しております。

という私ですが、4月にオーストラリアのメルボルンへ語学&看護留学のため渡航します。今まで日本という小さな国の中でしか医療を見たことがないので、海外の精神医療がどのように行われているのか、自分の目で見たいと思っています。博士課程を中断しての留学になってしまったのは残念ですが、これも意味があることと思っておりますので、復学の暁には発表会は英語で行いたいと考えている所存です。

末尾となりましたが、皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。(写真は、山梨県のおどろの丘でおいしいワインをいただいた時のものです!)

本郷実先生(成人・老年看護学 教授)が、定年のため平成28年3月末をもって退職いたしましたのでお知らせいたします。なお、ご挨拶は次号掲載を予定しております。





活躍する同窓生

＋学生とともに

神奈川県教育委員会厚生課保健師・
浦和大学こども学部非常勤講師

一色 喜保
(医短 25回生)



平成13年に医療短大を卒業後、実家のある滋賀県に戻り、人口2万人の町の保健師をしていました。信大で出会った夫と結婚後、思い立って千葉市へ転居し、千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程に進学しました。そして、大学院在学中に妊娠・出産しました。再び行政保健師として住民と共に健康なまちづくりをしたいと思いつつ、育児をしながらどのように働くかを悩みました。こどもとの時間を大切にしたいと思い、育児を優先した働き方を模索し、神奈川県教育委員会の仕事に出会いました。現在は、週4日、県立学校の教職員の健康管理をサポートする保健師として働き、週1日は大学の非常勤講師をしています。学生の頃に野外教育のボランティアを一緒にしていた友人から依頼を受け、昨年4月より、浦和大学こども学部で、保育士や幼稚園教諭を目指す学生たちと「こどもの保健」の授業をしています。学生の頃には、想像しなかった看護職としての働き方ですが、楽しい毎日です。

大学では、「学生たちが卒業後も自分の居場所で自分らしく輝いてほしい」と願って、授業をしています。教材は、行政保健師をしていた時に、育児教室や家庭訪問、乳幼児健診など、母子保健活動

をした経験です。また、我が家のドタバタな日常など、私自身の育児も学生と共有しています。さらに、保育者自身が健康であることが良い保育に必要な不可欠と考え、「快眠」や「ストレスとの付き合い方」など、学生自身への健康教育に力を入れていません。感染症予防や事故防止、応急処置、虐待を防ぐネットワークづくりなどをテーマに授業をしています。

最初の頃は、外国語を聞いているような学生の反応に戸惑いました。今では、予想外の反応を楽しめるようになり、思いがけない反応が大変興味深いです。何より、学生たちのこどもの良い所を伸ばそうとする思考プロセスが新鮮です。自分が、問題点にばかり着目してしまう傾向があることに気づきました。学生との関わりの中で、自分が日々進化していることを実感できます。先日、保育実習に行った学生から、演習が役に立ったと報告を受け、とてもうれしく思いました。今後も、学生に寄り添いながら、学生と一緒に授業をつくり、自分自身も成長を続けていきたいです。



＋私の業務は

信州大学医学部附属病院看護師長 篠原 弘枝
(医短 16回生)



看護部のシステム担当の業務を始めて3年目になりました。主な業務は、病院情報システム（電子カルテ）の一環である看護業務支援システムの円滑な活用と、経営とサービスの面か

ら看護の質の向上のための支援を行うことです。業務の内容としては、業務で使用する電子カルテの看護に関わるシステムの運用支援とサポート、メンテナンス、イントラネットにあるマニュアルの整備等々多岐にわたります。もちろん、看護の現場に行くことも多くあります。最近では、蓄積された看護に関わる情報の利活用する機会が増えてきており、その対応も始めています。

この業務を始めた3年前から、いつも見えるところに貼ってあるメモがあります。メモには、「看護

職はどのような役割を持つか」、「どのように仕事をしているか(業務フロー)」、「どのような情報が必要でどのように活用して仕事をしているか」と書かれています。システム担当は院内外の多職種の方々と話す機会が多くあります。看護の業務を説明する際、自分が経験している看護の仕事をうまく説明ができないもどかしさを感じたのが1年目でした。このメモを見ては看護を客観的に考え説明できるようにしています。まだうまく説明ができないこ

ともありますが、看護の説明をする機会ごとに感じるのは、看護職って本当に広い範囲の仕事をしていて様々な役割を担っている、そして多くの職種の人に支えてもらって仕事をしているということです。看護は見えにくいこともあると感じる面もありますが、これからさらに広く連携が進んでいく中で看護の力が発揮できるように裏方として役割を果たしていこうと思っています。

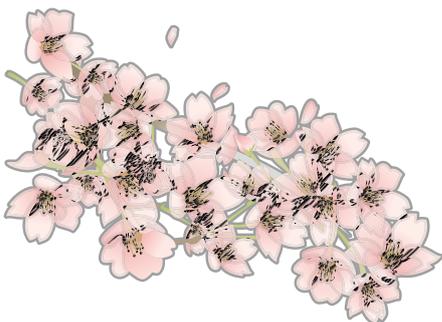
母の介護を通して学んだこと

小笠原裕子
(医短 19回生)

看護師になって早20年、自分が就職した頃の師長と同じ世代になったわけですが、気持ちの上でも技術の上でもまだまだ未熟で至らなさを痛感するばかりの毎日です。

この20年の大きな変化に母が50歳で若年性の認知症と診断され、昨年65歳で亡くなったことがあります。私は学生時代から在宅ケアに興味があり、大学病院退職後は訪問看護ステーションで働いていました。仕事の中で認知症の患者さんと接する機会はたくさんありましたが、自分の親となるとなかなか現実を受け入れることができず、苦悩する日が続きました。

医療や介護を“提供する側”から“される側”になり、患者さんの立場は想像以上に弱いものだということが痛感しました。自分が今まで良かれと思って患者さんに言っていた言葉でも、言われる側になると「偉そうに言われたくない!」と反感を感じたり、攻められているように感じたり…患者さんの心というのは繊細で複雑なものだと思いました。



母を介護する中で認知症の人やその家族同士が気楽に情報交換したり話をできる場所があればいいなと思い、3年ほど前から諏訪地区で“認知症の人の家族のつどい”を毎月開催しています。始めた当初は5人程度の参加者でしたが、次第に人数が増え今では毎回20人くらい集まってくれるようになりました。自分の経験を活かしたいと思ってはじめて“家族のつどい”ですが、今は介護に向き合っている皆さんのお話から私の方が元気付けられる事が多くなっています。「ここに来れば自分の経験を人に伝えることもできるし、誰かに相談にのってもらえることもできる」と思ってもらえるような“駆け込み寺”のような場所を目指して活動を続けています。

家族のつどいを続ける中で、諏訪地区の介護事業者の有志で“RUN伴”というイベントを今年長野県でしようと準備を進めています。RUN伴とは認知症の人が安心して暮らせる地域を目指して、認知症の人や支援者がたすきをつないで街中を走る…という全国的なイベントですが、長野県では開催したことがありませんでした。長野県全県でたすきをつなぎたいと思っていますので、ご興味のある卒業生の皆さんがいらっしゃいましたらぜひ参加頂ければうれしく思います。こうやって多くの方と知り合いになり、活動できるのも母が認知症になったおかげ…“親は亡くなる瞬間まで子供のことを考えている”と聞いたことがあります。母は私に身をもってたくさんのことを教えてくれました。母に教えてもらったことをこれからの看護師としての生活に生かしていきたいと思っています。

同級会報告

アルプス会総会日に合わせて同級会を行った学年に、同級会支援費が支給されています。同級会に参加できなかった方のためにも、その様子を伝えるために、同級会報告の会誌掲載を支給条件としています。今年度は3学年が行いました。その報告と写真をご覧ください。

+ 医短 6回生

同級会の補助金をありがとうございます。静岡からの参加もあり、卒業後30年過ぎているのも忘れて花が咲きました。子育て、孫の子守、親の介護などを抱えながらそれぞれの人生を謳歌しています。次回は、もっと大勢集まれるといいねと別れました。



+ 医短 11回生

11回生の同窓会をしました。楽しい会となりました。

【参加者】

上段左から、伊藤(塩澤)礼子、矢田(木原)千秋、上水(山崎)宏美、下里誠二、宮下(赤池)美津江
中西(下島)美佐穂、樫山(小林)直美、小林(神戸)美恵子、百瀬(浅川)鏡子、百瀬(勝山)文枝、百瀬(小林)直子

+ 医短 25回生

昨年度、同級会を開催し支援頂きましたが、報告が遅くなり申し訳ありません。卒業してから15年目に初めて同級会を開催しました。久しぶりに会う人が多かったのですが、卒業して2～3年程度の感覚でおしゃべりしており、皆の心が通じていると感じました。とても楽しい時間をすごしました。次の同窓会は何年後かなあ…。

文責:草間



同窓会会則

信州大学医療技術短期大学部・信州大学医学部保健学科看護学専攻同窓会 アルプス会 会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医療技術短期大学部・信州大学医学部保健学科看護学専攻同窓会「アルプス会」(以下「本会」という)と称する。
- 第2条 本会は信州大学医学部保健学科同窓会の看護学専攻分科会として位置づけられる。
- 第3条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号信州大学医学部保健学科看護学専攻内に置く。
- 第4条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員の親睦および研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 信州大学医療技術短期大学部看護学科の卒業生
 - ロ 信州大学医学部保健学科看護学専攻(以下「本専攻」という)の在在生および卒業生
 - ハ 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程(看護学分野)および後期課程(看護領域)(以下「本大学院」という)の在在生および修了生
 - 二 特別会員
 - イ 本専攻教員
 - ロ 本専攻元教員
 - ハ 信州大学医療技術短期大学部看護学科元教員
 - ニ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。

- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員のうち信州大学医療技術短期大学部卒業生は会費として5,000円、信州大学医学部保健学科看護学専攻の在在生および卒業生、信州大学大学院医学系研究科博士前期課程(看護学分野)の在在生および修了生、後期課程(看護領域)の在在生および修了生は会費として2万円を納入するものとする。すでに会費を納入している本会の会員が3年次編入および大学院に進学した場合は、2万円の納入は免除される。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 幹事 若干名
 - 四 会計 1名
 - 五 書記 1名
 - 六 理事
 - イ 医療技術短期大学部および医学部保健学科看護学専攻卒業生；各回生2名
 - ロ 医学系研究科博士前期課程(看護学分野)および後期課程(看護領域)修了生；各回生1名
 - ハ 保健学科看護学専攻在在生；8名(各学年2名)
 - ニ 医学系研究科博士前期課程(看護学分野)在在生；1名
 - ホ 医学系研究科博士後期課程(看護領域)在在生；1名
 - 七 会計監査 1名

- 第11条 役員は、次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 三 幹事は事務局において本会の実務にあたる。
 - 四 会計は本会の会計を司り、総会において会計報告を行う。
 - 五 書記は庶務記録を司る。
 - 六 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 七 会計監査は会計監査を行う。

- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 幹事は、会長が委嘱する。
 - 四 理事は、正会員の中から選出し委嘱する。
 - 五 会計は、総会において正会員の中から選出し委嘱する。
 - 六 会計監査は、総会において正会員の中から選出し委嘱する。
 - 七 書記は正会員の中から選出し委嘱する。

- 第13条 役員任期は、2年とする。ただし、在学学生理事の任期は1年とする。再任は妨げない。
- 2 補欠による役員任期は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 顧問

- 第14条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第15条 総会は、原則として毎年1回開催し次の事項を審議決定する。
- 一 事業および決算報告
 - 二 事業計画および予算
 - 三 会則の制定および改廃

- 四 役員を選出
- 五 顧問の推挙
- 六 その他の必要事項

- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第16条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
- 第17条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第18条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第19条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第20条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第21条 総会は、議事録を作成しこれを保存する。
- 第22条 理事会は、会長、副会長、幹事、会計、書記、理事、会計監査によって組織する。
- 第23条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第24条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
- 第25条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第26条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。
- 第27条 役員会は、会長、副会長、幹事、会計、書記によって組織する。
- 第28条 会長は役員会を招集し、必要事項について話し合うことができる。

第6章 会計

- 第29条 本会の経理は、会費および寄付金その他の収入をもって充てる。
- 第30条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- この会則は、平成7年5月13日から施行する。
- この会則は、平成18年7月29日から施行する。
- この会則は、平成19年7月14日から施行する。
- この会則は、平成21年7月11日から施行する。
- この会則は、平成22年7月10日から施行する。

アルプス会会計細則

1 同窓会費

- (1) 信州大学医療技術短期大学部卒業生は終身会費として5,000円
- (2) 信州大学医学部保健学科看護学専攻在校生および卒業生は終身会費として2万円。保健学科在学中あるいは卒業後に保健学科同窓会に納入した保健学科同窓会費6万円より看護学専攻分科会費として2万円が納入される。
- (3) 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程（看護学分野）の在生および修了生、後期課程（看護領域）の在生および修了生は終身会費として2万円。前期課程および後期課程に在学中あるいは修了後に保健学科同窓会に納入した保健学科同窓会費4万円より看護学専攻分科会費として2万円が納入される。すでに会費を納入している本会の会

員は2万円の納入は免除される。

- (4) 信州大学医学部保健学科看護学専攻生が助産学を専攻した場合は、同窓会費2万円のうち1万円を桐の木会の会費として納入する。
- (5) 特別会員は会費の徴収をしない。

- 2 代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
- 3 会計は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 4 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則

この細則は、平成18年7月29日から施行する。

この細則は、平成19年7月14日から施行する。

この細則は、平成21年7月11日から施行する。

アルプス会会計申し合わせ事項

- 1 理事会、役員会を開催した際には、役員に対して日当1,000円を支給する。
- 2 事務局の運営費として年3万円を支給する。
- 3 会則第5条三に基づき、災害義援金等の社会貢献を行う。義援金等の寄付を行う基準は日本看護協会が呼びかけたものとし、役員会の審議を経て寄付を行うものとする。
- 4 正会員ならびに特別会員に関わる弔事の対応については役員会で検討し、香典あるいは弔電をもって5,000円を超えない範囲で対応する。

- 5 総会当日に各回生において同級会を開催する場合は、その支援費として、10名以上の参加につき、2万円を支給する。この申請については事前に事務局宛てに連絡する。なお、支給については同窓会当日の総会会場とし、同級会を開催したことを事務局に報告する。

この申し合わせは、平成18年7月29日から施行する。

この申し合わせは、平成22年7月10日から施行する。

この申し合わせは、平成24年7月14日から施行する。

同窓会事務局よりお知らせ

会員の住所変更等の連絡について

変更のある方は、

- ①同封の住所変更届を下記の宛先に送付あるいはFAXしていただくか、
- ②アルプス会会員であること、卒業年度あるいは回生・学籍番号・氏名（旧姓）・新しい住所等を下記のメールアドレスまで送信していただきますようお願いいたします。

■ 信州大学医学部保健学科同窓会室

〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号

[電話&FAX] 0263-37-3510

[E-mail] mtnsopt@shinshu-u.ac.jp

思い出の写真

中校舎の今・昔

昔



以前は調理実習室でした。

北校舎への渡り廊下にはスロープができました。



昔



北校舎と中校舎の間はジャングルと化していましたが…

その後、地域看護の実習室となり…



耐震工事後にはこうなっています!!

2階～4階は先生方の研究室がたくさん!

今回の工事でスッキリしました!!



今



以前は事務室でした



211 講義室



2016年(工事後)

昔

入口の銘板は「保健学科」



2016年(工事後)



2013年(工事前)



1980年代初め

中校舎入口近くの石碑
信州大学
医療技術短期大学部
と書かれています

編集後記

飯島恵道先生の講演会は、とても興味深く引き込まれました。お話の要旨をまとめるのは大変でしたが、今回は編集委員の中でも、尾上さんが記事の作成に大活躍してくださいました。(他の委員は大感謝!) また、同窓生たちも歳を重ね、家族の介護や自分の生活、仕事を考える場面が増えていきます。今回の「活躍する同窓生」のコーナーは、そんなことを考えながら、お読みください。

さて、会報編集委員は引き続き、次期編集委員と会報のアイデア、および懐かしい「青春の1ページ」の写真を大募集中です。もちろん、会報へのご意見・ご感想もお寄せください。事務局または、kiyokoi@shinhu-u.ac.jp までお願いいたします。なお、会報の発行が遅れましたことをお詫びいたします。

編集委員: 伊藤喜世子(医短7回生)、尾上りえ(医短17回生)、草間恵里(医短25回生)、東田依子(医短25回生)